公益財団法人 渥美国際交流財団
2021年度奨学生秋季研究報告会

当日の写真

総合司会の角田事務局長（左）と
開会挨拶をする渥美直紀理事長（右）

会場の様子

2021年度渥美奨学生秋季研究報告会は、財団ホールとオンラインのハイブリットで開催されました。

2021年度渥美奨学金受給者で本年度中に博士号を取得する予定の7名が、奨学期間中の研究成果を報告しました。7名の内6名が対面で、1名がオンラインで発表し、指導教官の先生方や財団理事からコメントをいただきました。

また、春季研究報告会で発表が終わっている2021年度奨学生と2022年度奨学生が司会やタイムキーパーを務めました。

指導教官の森正稔先生（左）と財団理事の劉傑先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の李趙雪さん（右）とタイムキーパーのザヘラモハッラミプールさん（左）

詹 亜訓さんの発表

「社会問題と帝国問題の連鎖—帝国主義論と民衆の政治的主体化を手がかりに」

指導教官の小島毅先生（左）と王杏芳さんの指導教官 刈部直先生（右）よりコメントをいただきました。

華夷観への衝撃と新日本像の形成

- 中国の「天下秩序」において、文明化の程度を表現する「華・夷関係」：
- 中国（華）／中国へ朝貢する国（夷→華）／中国と無関係の国（夷）
- 朝貢国ではない（正式な国交がない）日本は「夷」であるはず。
- なぜ優れた儒学ができる??
- ⇒ 「文明がある」という新日本像が形成した。

司会の廣田千恵子さん（上）とタイムキーパーの丁乙さん（下）

蔣 薫誼さんの発表

「清代中国における徂徠学 の受容——十八・十九世紀の漢籍逆輸入を中心に」

指導教官の吉田寛先生（左）と財団理事の平川均先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の朴峻喜さん（右）と
タイムキーパーの安ウンビョルさん（左）

1. ダルムシュタット講習会における「参加」概念の出現

• 1970年、72年のダルムシュタット講習会における「音楽と政治」論争

- ①講習会組織内部の問題
：作曲指導者と作品の選択に関する透明性や国際主義の欠如
- ②グローバルな問題
：新左翼の作曲家や批評家たちの社会への積極的な参加に対する要請

→反権威主義という共通問題

©Plakat Stadtarchiv Darmstadt

曹 有敬さんの発表

「20世紀音楽におけるコラージュのポエティクスとポリティクス
——1960年代、70年代の理論と実践における「アンガージュマン（Engagement）」の諸相」

指導教官の阿古智子先生（左）と財団理事の劉傑先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の武内今日子さん（右）と
タイムキーパーのマリア プロホロワさん（左）

郭立夫さんの発表
「中国における性的マイノリティの社会運動と性の政治」

指導教官の松田陽先生（左）と財団理事の平川均先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の趙炳郁さん（右）と
タイムキーパーのノーラ ワイネクさん（左）

2 研究方法

- 多岐にわたる文献考察と聞き取り調査、国際追悼式での参与観察

➡ 同公園をめぐる主体間の多層的な記憶のダイナミズムを、文化遺産の観点から解明

➡ 日・韓・米で散発的になされた研究の全体像を総体的に把握し、**研究史の空白を補完**

李 貞善さんの発表
「記憶の場としての国連記念公園：戦争墓地の文化遺産化」

指導教官の塩見春彦先生（左）と財団理事の片岡達治先生（右）よりコメントをいただきました。

司会の陳虹宇さん（右）と
タイムキーパーの加藤健太さん（左）

李典さんの発表
「TDP-43は胚ゲノムをL1の転移から守る」

指導教官の刈部直先生（左）と財団理事の片岡達治先生（右）よりコメントをいただきました。

司会のヒルマンさん（右）とタイムキーパーのザヘラモハッラミプールさん（左）

- ・「心儘」の人間が集まった世界において、いかにして安定した社会を作ることができるかという視座
- ▶人間の「心儘」はどう見られていたのか
- ▶なぜ可能となったのか
- ▶それを警戒するためにいかなる方法を講ずるべきか

王 杏芳さんの発表
「心儘ノ世界」と政治思想—近世日本における徂徠学から朱子学への転回—

最後に渥美伊都子顧問より閉会挨拶がありました。

休憩時間の様子

休憩時間の様子

報告会終了後のお弁当の様子

ご参加くださった先生方、どうもありがとうございました。
2021年度奨学生のみなさんのご活躍を期待しています！